

寒令の候、会員および関係者の皆さまには、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

また、日頃は当会の事業に多大なる御理解、御支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

2025年度は、10名の青年を迎えて交流活動・人権啓発活動・社会貢献活動に取り組んでまいりました。

昨年9月に実施した沖縄スタディツアーには、団員それぞれが「何を学びたいのか」を明確にした上で参加するなど、十数回にわたる研修を通じて、自分で考え、そして実際に現地に行って、見て、聞いて、学ぶ姿勢が団員たちの中に育まれたと感じております。

また、昨年12月に行われたヤングサンタ事業では、IYS団員以外にも高校生や大学生を含め、計17名が訪問ボランティアスタッフとして集まり、堺市内の16家庭の子どもたちと楽しいひとときを過ごすことができました。青年の皆さまには、今年度の経験をぜひ、次年度につなげてほしいです。

次年度も、宿泊を伴う国内スタディツアーを役員会等で検討しています。会員の皆様には、4月のIYS総会で学びの多い、すてきな活動計画をお示しできるよう、事務局を中心に検討を進めてまいります。私たちインターユース堺は、今後も【参加】・【開発】・【平和】・【人権】をテーマに明るい未来の創造に貢献できる、人権意識と国際感覚を身につけた青年の育成に取り組んでまいります。皆さまの更なる御支援と御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2025年度 スタディツアー報告

6年ぶりにIYSスタディツアーが戻ってきました。今年度は、「戦後80年・考えよう沖縄の平和と未来」をテーマに9月6日から9日の4日間にわたって沖縄を訪問してきました。戦後80年をむかえた沖縄の戦跡めぐりや戦争体験のお話、現地に住む当事者の方にインタビューをするなど、団員が現地で積極的に活動を行いました。また、現在も存在する米軍基地に関わりの深い地域や実際に基地内も訪問し、交流するなかで、地域の経済的基盤や価値観の違いにふれ、平和な未来のあり方についても深く考える貴重な体験となりました。ここでは、ツアーの様子を日ごとに振り返ります。

【1日め】団員が元気に沖縄に到着しました。北谷町（ちゃたんちょう）でアメリカンビレッジを散策し、青い海を眺めました。ここは以前、米軍基地でしたが後に返還された土地で、その跡地利用としてアメリカ文化を前面に出した街づくりが進められています。

続いて訪問した嘉手納町（かでなちょう）では、展望デッキから広大な嘉手納基地を眺めながら戦後の沖縄県とアメリカ軍について地元の観光ガイドさんから説明を受けました。沖縄市のコザまちフィールドワークでも、アメリカをはじめ多国籍の文化が交わる街の姿を体感しました。地元の人の基地への思い、県内の方の基地への思い、立場によって全く違うものだと現地に来て初めて理解できました。

【2 日め】沖縄戦の慰霊碑が多く立ち並ぶ摩文仁の丘（まぶにのおか）周辺の見学をしました。組織的な地上戦の終焉の地です。平和の礎、沖縄県平和祈念資料館、ひめゆりの塔、ひめゆり平和祈念資料館では、多くの証言にふれ、戦争がごく一般の人々の生活を一変させる状況に心が痛みました。南城市（なんじょうし）にあるターガーガマにも入りました。ガマの中は暗く、湿った環境で、避難生活を極限状態でしていた事実を追体験できました。過去から学ぶことの大切さ、現地で見て改めて感じる戦争の悲惨さを受けとめ、学びにつなげていきます。



【3 日め】ひめゆり学徒隊が移動したルートを逆にたどるように沖縄戦の戦跡めぐりを行いました。午前は、南風原町（はえばるちょう）にある、沖縄陸軍病院南風原壕（おきなわりくぐんびょういんはえばるごう）と文化センターの見学、午後からは沖縄戦の激戦地である前田高地（別名：ハクソー・リッジ）のフィールドワークを行いました。南風原壕（はえばるごう）では、実際につかわれていた病院壕に入り、当時の様子を想像しました。こんな狭いところに、負傷者が手当てもほとんど受けられないまま息を潜めていたことを感じると、改めて戦争の怖さを重く受け止めました。前田高地（別名：ハクソー・リッジ）は日米両軍が激しい攻防を繰り広げた激戦地です。戦争遺構を静かに見つめながら、亡くなった人たちも家族がいて、何気ない日常があったことを感じ、平和とは何なのか、それぞれが向き合いました。現在は丘の上からアメリカ軍の普天間飛行場が見えます。

【4 日め】最終日のテーマとして「未来の平和と沖縄を考えること」を設定し、活動に取り組みました。午前は、近代の沖縄の信仰・文化を知るために波上宮や首里城公園の見学をし、再建中の首里城を巡りながら、琉球の文化を大切にし、未来に世界遺産を残す取り組みについて学ぶことができました。首里城の地下には、沖縄戦で使われた司令部壕の跡があり、そちらも公開に向けて整備中でした。

午後は、米軍普天間飛行場内に入り、海兵隊基地の見学と交流ツアーを行いました。海兵隊基地では、普天間基地の司令官から東アジアと沖縄基地との関係や近隣との関係についてレクチャーを受け、様々な施設見学を行いました。米軍基地を取り巻く環境や未来のあり方は様々な議論がありますが、丁寧に対応してくれた隊員の人たちも命令があれば戦地に赴き戦争に参加しなければなりません。何がよりよい未来の形なのか、考えれば考えるほど葛藤が生まれます。現地で見たものは圧倒的に記憶に残ります。自分で動くからこそその発見があります。見方を変えて、事実をせまれば、簡単に是非を判断できないような場面はたくさんあります。多面的、多角的にものごとを見ることで、自分の新たな価値観に出会う IYS らしいツアーとなりました。



【第17期団員の感想から】

・ニュースの知識だけではなく、現地に行かないと分からないことがある。基地内の土地の所有者の話や基地の雇用で生きる日本人がいる。仕事なくなる点、騒音・悪臭の点を考えると、基地の存在がよいのか、どちらともいえない。基地とともに生きるコザでは、「多様性のまち」を感じた。

・沖縄では基地を許容しているのと思っていたが、一方で嫌な思いをしている人もいる。なくせば働く場所や居場所がなくなる問題がある。だから難しい問題。軍事施設なのでないほうがよいが、歴史的にも完全になくすのは無理なのではないか。

・ガマでお話をさせてもらった。戦争のおかしいところは、教育を狂わせること。平和な日常を生きたらその考えにはいたらない。戦争の話は、長らく沖縄ではタブーだった。沖縄だけでなく、日本全体で「平和」をとらえる必要があるのではないか。

・南風原壕（はえばるごう）に入ったときや、展示物の木製ベッドに寝転んだときの感触が印象深かった。傷病者が壕内に詰め込まれるのは戦場では普通だったという。過酷な時代を身体と心で感じた。

【IYSの活動目的】

IYSの活動目的は「人権意識と国際感覚を身に付けた青年の育成」にあります。ここでいう「国際感覚」とは、「海外について詳しい」ということではなく、「国」や「民族」、「人種」という枠を超え、「人と人」として対応できるとともに、異なる文化が存在する意義も理解できる、多様性を感性として身につけることにあります。

そのためにIYSが大切にしているのは、「体験」と「交流」です。

今回は「平和」が大きなテーマになりましたが、様々な立場の人からお話を直接うかがい、自分の価値観が揺さぶられる場面があったのではないかと思います。事前研修で積み重ねた学びをもとに個人テーマを設定し、現地で実際に当事者から学ぶ。青年期にできるこういった体験こそ、重要であると考えます。私たちIYSの基本理念はそのままに、人と人がつながっていける事業計画を次年度も提案させていただきます。今後ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



2025年度 ヤングサンタ家庭訪問

IYSの社会貢献活動の一つにヤングサンタ事業があります。青年に社会参加の場を提供することを目的に、サンタクロースに扮するボランティアではなく、その企画や準備を各グループに分かれて自分たちの責任で訪問を行ってもらいました。訪問家庭に関しても、堺市内各区の多数のご家庭からご応募をいただきまして、厳正なる抽選の結果、計16家庭にプレゼントと夢をお届けしました。また、IYSの団員に加えて、一般公募のボランティアスタッフにも参加いただき、ご活躍いただきました。グループでは、高校生と大学生が一緒になって、子どもたちの喜ぶ姿を想像して準備に取り掛かり、世代の違う青年の交流も行うことができました。家庭説明会で直接「お子さんに対する思い」を聞き取り、当日の出会いを想像しながら、バルーンアートやスノードーム作りなどのパフォーマンスを練習し、わずかな期間で準備を行いました。



12月20日(土)本番当日は、午前中からメンバーが集まりだし、パフォーマンスの練習や打ち合わせなどの最終確認を行って、夕方にはいよいよ出発！無事故・大成功で帰ってくることができました。ヤングサンタ本番当日に向けて、あらゆる方面から御協力・激励をいただいた皆さまに感謝申し上げるとともに、来年度もより一層の御支援を賜りますよう、お願いいたします。



IYS 出前講座 第17期団員の活躍

今年度は10月と11月に、堺市立中学校教頭会と堺市立浜寺昭和小学校での出前講座で、有志の17期団員に、IYSでの活動を通じて経験したこと、学んだこと等について語ってもらいました。

【堺市立中学校教頭会】

10月27日(月)の教頭会にて実施した出前講座では、



「学校園における異文化理解と外国にルーツのあるこどもへの支援について」をテーマに、前半に団員の戸練さん、北野さん、米田さんの3名に、沖縄スタディツアーでの活動報告をしてもらい、後半には講師に田中ルジアみや様をお迎えして、外国にルーツのあるこどもたちが学校園で直面する課題とその対応についてお話していただきました。

団員らは、沖縄での経験をもとにターガーガマに実際に入ることと痛感した戦争の残酷さや、平和祈念資料館・ひめゆりの塔の見学を通じて理解した「学生としての権利や、人間としての当たり前前の権利が、戦争という最大の人権侵害で壊される恐怖」について語り、普天間基地での見学を通じて学んだ、基地の役割や騒音問題についても発表しました。



【堺市立浜寺昭和小学校】

11月6日(木)の浜寺昭和小学校5年生に向けて実施した出前講座では、「子どもたちに、国や文化の違いにとらわれず、互いを尊重し認め合うことの大切さを知ってほしい」という小学校の先生の思いから、「外国の方々と交流して気づいたこと～アジアのことをもっと知ろう～」をテーマに、歴代のインターユース堺が集めてきた資料をもとに台湾とベトナムの文化についてお話をしました。

団員の戸練さん、米田さんは、クイズを通してベトナムの文化を紹介し、「違い」を知ることの大切さについて伝えました。こどもたちは終始積極的に参加し、発言していました。また、この講座を通じて「みんな違ってみんないい。」ということに気づいてくれたのではないかと思います。積極的な学習の様子から異なる文化に興味を持ち、学ぼうとする姿勢が「平和や人権が尊重される社会」への第一歩だと感じました。

